

## 二〇一七年度 東北大学前期試験 国語解答・解説及び配点予想

※ここでは国語を100点満点で考えています。学部学科によって満点が異なることも考えられますが、配点のポイントは共通であると考えられます。

### 一 【現代文】

#### 【解答例】

問一 1 真偽 2 混在 3 差異 4 人為 5 支障

問二 皇帝は「頭で知っている」ことを描いた画を「眼に見えるかたち」を描いたものだと思い込んでいたから。(四十八字)

問三 キュビズムの芸術家たちが、現実の対象がそう見えないと知ったうえで、あえて複数の視覚像を合成したこと。(五十字)

問四 エジプト人の正面像と側面像を合体した人体表現は、人間がそう見えると思ったままに描いたものであること。(五十字)

問五 どちらも「眼に見える世界」を自己との関係において知性の働きで無意識に修正したものを、ありのままの世界として描いた点。(五十八字)

#### 【配点予想】(三十点)

問一 一点×5 解答通り

問二 五点 ポイント以下の通り

a 絵画における「頭で知っていること」と「眼に見えるもの」の関係を過不足なく説明しているか。…三点

b aが皇帝において無意識のものであったことを説明しているか。…二点

※aのみでは不可。

※末尾の句点を脱した場合、一点減(以下同じ)。

問三 五点 ポイント以下の通り

a 複合的な人体像が実際にそう見えないものであることを説明しているか。…三点

b キュビズムの画家たちの行為が意識的なものであったことを説明しているか。 ……二点

問四 五点 ポイント以下の通り

a エジプト人の絵画について説明しているか。 ……二点

b aが「写实的」だったことの内容を説明しているか。 ……三点

※aのみでは不可。

問五 十点 ポイント以下の通り

a 両者における「視覚」と「知性」の関係を過不足なく説明しているか。 ……四点

b aが自己との関わりにおいて生じるものであることを説明しているか。 ……三点

c a、bが無意識的な行為であることを説明しているか。 ……三点

※aのみでは不可。

※誤字・脱字・句読点のミスや、文法的な誤りなどはそれぞれ減点。

### 【解説(総合)】

高階秀爾「芸術空間の系譜」からの出題。絵画に表される人間の知覚像は、外界をありのままに捉えたものではなく、知性による変形を被ったものであるとのべ、さらにキュビズムの画家たちと原始芸術における類似の表現は、それが意図的なものであるかどうかにおいて違いがあることを述べる。本文の長さや設問数はほぼ例年通りで、昨年度に比べてやや設問の指定が細かくなった。

### 【解説(設問「と」)】

問一 漢字問題。標準的なものである。

問二 傍線部について、筆者がそのように判断した理由を問う問題。本文の主題に触れることを求められている点に注意。

問三 傍線部の表現についての筆者の意図を問う問題。前後の文脈を整理すれば出るが、ここでの「意識的な方法」の話が問三や問五と対比的な関係になっっている点に注意する。

問四 傍線部の言い換えを求める問題。傍線部の「写実的」が直前の「実際にそのように見えた」に置き換えられていることに気づけば容易。

問五 ラスコアの壁画とエジプト人の絵画の共通点を、全体の趣旨を踏まえて説明する問題。「全体」の指定から問二、三、四の要素をすべて含めてまとめ。東北大の典型問題。

## 二【現代文】

### 【解答例】

問一 1 とても。はなはだしく。 2 量が多いさま。 3 おそろおそろ。距離を取るさま。

問二 弟の古いノートを前にして気持ちが動転し、祖母の行動に注意が向かなかったから。(三十八字)

問三 味覚も乱されるほど、弟の泣き騒ぐ様子を腹立たしく感じたこと。(三十字)

問四 弟は天才で自分は器量よしだと言われ続けたことで、自分は外見だけで頭が悪いと言われたと感じ、周囲に反抗したくなったから。(五十九字)

問五 弟のノートの「ひねくれおとこ」の絵が、頭がよく可愛かった弟の、想像もつかない内面の孤独を表していると気づかされて悲しくなったということ。(六十八字)

### 【配点予想】(三十点)

問一 一点×3 ※ニュアンスが出ていれば可。

問二 五点 ポイント以下の通り

- ・ 弟のノートを前にした心情を説明しているか。 ……三点
- ・ 祖母の行為に注意が向かなかったことを説明しているか。 ……二点

問三 五点 ポイント以下の通り

- ・ 弟の泣き声が原因だと説明しているか。 ……二点
- ・ 主人公の心情を説明しているか。 ……三点

問四 七点 ポイント以下の通り

- ・ 弟と自分の比較を説明しているか。 ……二点

- ・主人公の心情を説明しているか。 ……三点
- ・行動の意図を説明しているか。 ……二点

問五 十点 ポイント以下の通り

- ・弟のノートの絵を見たことを説明しているか。 ……二点
- ・弟への記憶について説明しているか。 ……二点
- ・絵が弟の孤独感を表していることを説明しているか。 ……三点
- ・主人公の心情を説明しているか。 ……三点

※誤字・脱字・句読点のミスや、文法的な誤りなどはそれぞれ減点。

### 【解説(総合)】

いしいしんじ「ぶらんこ乗り」からの出題。弟の古いノートを見たことから生じた、弟への追憶と悔恨を語る部分。本文量、設問数は例年通りだが、文章が例年に比べて極めて平易であり、設問そのものの方向も容易である。そのためかえって設問の指定に沿って丁寧に答案をまとめなければ周囲との差がつきにくい。ちなみに、注釈がないので把握できないが、弟は事故で死んだのではなく、声を失ったのであるらしい。

### 【解説(設問1と2)】

問一 語句の意味を問う問題。平易なものである。

問二 傍線部「ふりかえらずいったみたい」の「みたい」と語った理由を前後の内容を踏まえて説明する問題。前後から弟のノートを前にして、ノートに触れていることにすら気づかなかった様子が読み取れる。

問三 傍線部「コーンが急に湿ったみたいな感じがした」とはどういうことを問う問題。やはり文脈で答えられる。表現そのものを敷衍しても間違いないが、心情を説明した方がより適切か。

問四 「自分の髪をでたらめに切った」主人公の行動の理由を問う問題。直前の文脈から弟との比較への違和感が読み取れ、さらに後の文脈で二度とそうした比較をされなくなったことが語られているので、周囲への意思表示だたと見るのが妥当だと考えられる。

問五 設問の指定で「本文全体の趣旨を踏まえ」とあるので、ここまでの設問の要素をすべて盛り込む。東北大の典型問題。

## 三【古文】

## 【解答例】

問一 (1) 知りたいと思つて

(2) 言うまでもないけれども

(3) 注意して

問二 物事の実態を研究し明らかにすること。

問三 だから語源と用例とが異なる「なかなか」や「こころぐるし」を踏まえ、全ての言葉を、同様に考え理解して(五十字)

問四 古語の語源にばかり頼つては、かえつて昔使用されていた意味と合わないことが多いだろうよ。(四十五字)

問五 古語の語源は一般的に明らかにし難いものであるし、また、語源と使用された意味とは異なることがあるため、歌や文章を実作する際に、間違つた使い方をする恐れもあるから。(八十字)

## 【配点予想】(二十点)

問一 各一点×3

問二 二点

・「物す」が「明らかにする・研究する」の意である。 …二点

問三 五点

・「されば」の訳。 …一点

・「これら」が直前の具体例を指していることを踏まえている。 …二点

・「万」の訳。 …一点

・「なずらふ」の訳。 …一点

問四 四点

- ・「言の本」の訳。 …一点
- ・「中々に」の訳。 …一点
- ・「いにしへ」の訳。 …一点
- ・「かし」の訳。 …一点

問五 六点

- ・「古語の語源は明らかにし難い」。 …二点
- ・「語源と使用された意味とは異なることがある」。 …二点
- ・「歌や文章を実作する際に、間違った使い方を恐るるもある」。 …二点

【解説】

問一 (1) 「まほしく」は、希望の助動詞「まほし」の連用形。

(2) 「論なし」は、「言うまでもない・当然だ・もちろんだ」の意。

(3) 「心をつく」は「注意する・気を付ける」の意。

問二 傍線部は、本文五行目に「万の事」とあることから、古語の解釈について限定しているのではなく、何かを研究する際の一般的な心構えを述べている。「物す」は、直前の「まづその本をよく明らめて」から、「明らむ」の意である。

問三 「これら」は直前の「なか／＼に」「こころぐるし」という語源と使用された意味とが異なる言葉の例を指す。それらの具体例を踏まえて、古語の解釈の心構えを述べている。「なずらふ」は「準じる」「比べる」などの意。ここは、(前掲の例から)「類推して」や「同様に」などの意と考えられる。

問四 「中々に」は、直前の内容を踏まえて、「かえって」の意味で訳す。

「いにしへ」は、直前に「いにしへに用ひたるやう」とあるので、「昔使用されていた意味」と考えられる。

「かし」は念押しを終助詞。





問五 「本文全体の趣旨を踏まえて」とあるので、本文全体を見渡すこと。まず、本文六行目の「大かた言の本の意はく」を踏まえる。さらに、問四の口語訳問題の内容、本文九行目の「おのが歌文に用ふるにも、ひがことの有也」を踏まえる。

### 【全訳】

学問をする人々が、古語の、そのように言う語源を、知りたくて、人にまずたずねるのは、普通のことである。そのように言う語源とは、例えば「天」というのは、どのような意味なのか、「地」というのはどのような意味なのか、という類のことである。これも学問の一つであって、当然そうあるべきことではあるけれども、さしあたって、主とすることではない。だいたい昔の言葉は、そのように言う語源を知るよりは、昔の人が使用していた意味を、よく明らかにして知る方が良いのである。使用していた意味をさえ、よく明らかにしたなら、そのように言う語源は、知らなくても良いのである。そもそも全てのことは、まずその根源をよく明らかにして、末端のことを後にした方が良いのは、当然であるけれども、そのようなことばかりでもないことであって、事情によっては、末端からまず明らかにして、後に根源のことへさかのぼった方が良いこともあるよ。だいたい言葉の語源は、知るのが難しいことであって、自分で考察できたと思うことも、あたっているのかそうでないのか、判断が難しく、多くはあたりにくいものである。そうであるので言葉の学問は、その語源を知ることが、控えめにして置いて、くれぐれも、昔の人が使っていた意味を、注意して、よく明らかにした方が良いのである。たとえその語源は、よく明らかにしたとしても、どのようなところに使っていたかということを知らなくては、何の甲斐もなく、自分の歌文に用いるのでも、間違いがあるのである。今の世の中で古学を学ぶ人々などは特に、少し遠い言葉というと、まずそのように言う語源を知ろうとばかりして、使用していた意味は、考えようもしないために、自分が使う際に、ひどい間違いばかりが多いね。すべて言葉は、そのように言う語源と、使用していた意味とは、多くは同じではないものである。例えば「なかなかに」という言葉は、もとはこちらともあちらともつかず、中間にあるという意味の言葉であるけれども、使用していた意味はただ、「なまじつか」という意味であり、また移り変わって、「かえって」という意味にも使用していた。そうであるのを言葉の語源によって、一般的に、中間であるという意味に用いているのは、間違っているのである。また「心苦し」という言葉は、今の口語では、「気の毒である」という意味に使っているのを、言葉のままに、心が苦しいことに用いているのは、間違っている。そうであるのでこれらの例で、全ての言葉をも、同様に考えて理解して、まず昔使用していた意味を、優先して、明らかにして理解した方が良い。言葉の根源にばかり頼っては、かえって昔と違うことが多いだろうよ。

## 四【漢文】

### 【解答例】

問一 (1) もとより

(2) ゆえに

問二 (a) あにまことにほうせいのいまだそなわ(は)らざるか。

(b) しかるのちにえてやむべきなり。

問三 人民に耕すべき土地、なすべき仕事、十分な食と衣服があるようにさせて、

問四 人々の悪事を法律や制度を定めることで制限しようとする事。(二十九字)

問五 人々の悪事を、法律や制度以前の道徳的教化によって抑止した後で出す法律のこと。(三十九字)

### 【配点予想】(二十点)

問一 一点×2 解答通り

問二 二点×2 解答通り

問三 四点

・使役構文 …二点

・述語部分の並列 …二点

問四 四点 ニュアンスが過不足なく説明できていれば可。



問五 六点 「法制の内」と「法制の外」の対比構造を過不足なく説明していれば可。

※誤字・脱字・句読点のミスや、文法的な誤りなどはそれぞれ減点。

### 【解説(総合)】

方孝孺『深慮論』よりの出題。本文の長さ、設問数はほぼ例年通り。語彙・文法的に特に難解なところはなく、また注釈が備わっているため大意はつかみやすいが、かなり抽象的な政治論であるため、問われていることへの具体的な内容をまとめにくい。文法・知識に関わる部分は常識的なもので、この部分を確実に答えること。

### 【解説(設問ごと)】

問一 語句の読み。一般的なものである。

問二 書き下し。aの「豈」は一般的には反語を作る字だが、まれに疑問的なニュアンスになる。この場合は文脈的に後者なので「あに〜そならざらんや」ではない。bの「得而〜」は可能の強調表現。

問三 口語訳。使役構文は頻出。文の一部分なので、下に続く形で訳す。

問四 傍線部の説明問題。端的な説明に該当する部分がないため説明しにくい。前後が対句形であることからある程度方向は推測できる。

問五 趣旨説明。ここも端的な説明としてはややまとめにくい。問四の対句部分が本文の趣旨なので、ここから類推すればある程度の説明は可能。

### 【大意】

そもそも天下は元来乱を好むようなものではない。それなのにいつもしばしば乱が絶えない時期があるのは、法律や制度がまだ未整備だからだろうか。むしろ、天下の「元氣」が損なわれているためなのだ。そもそも人民というものは、天下の元氣である。君主が彼らの心を得たならば、天下は治まり、失えば乱れる。(政治が)正しい道に乗っ取っていけば安らかで、逆らえば危うい。そうした治乱安危の大事なところは、やはり法律や制度の外側から出てくるのである。(政治を行う)人が、いつも法律の内側のことだけにこだわらず、法律の外側に心を尽くさないのは、なんと間違っていないか。聖人の法は、物事を禁止する必要がなくなった後に禁止、物事がまだ起こらない前に命令する。だから法が行われても人々は怨まない。もし禁令を出



特訓予備校 /

©

養賢ゼミナール

して人々の盗みや略奪などの悪事をなくさせようとする時は、必ず先ずそうした悪事をなす理由を考え、（彼らに）耕すべき土地、なすべき正業、十分な衣食をあるようにさせ、その後禁じたならば、盗みなどの悪事は無くなるだろう。禁令を出して人々に人道に反するような行為をなくさせようとする時は、先ず人々に人の道を教えて教化し、礼儀や忠義などの教えを心にしみいらせて、自分たちの行為がよくないことだと理解させれば、終息させることができるのだ。